

郵政グローバル戦略タスクフォース

(第5回) 議事要旨案

- 1 日時：令和6年5月31日（金）16:00～18:00
- 2 場所：WEB 会議による開催
- 3 出席者：
 - ・ 構成員
三友座長、生貝座長代理、石橋構成員、伊藤構成員、太田構成員、大道構成員、
五味構成員、紺野構成員、森構成員
 - ・ オブザーバー
日立製作所、日本郵便国際郵便事業部
 - ・ 総務省
玉田郵政行政部長、青木国際企画室長、瀬島企画課課長補佐
- 4 議事
 - (1) 開会
 - (2) 議題
 - ① タスクフォース論点整理案（国内関連）
 - ② ①について意見交換
 - ③ 「JPビジョン2025+（日本郵政グループ中期経営計画見直し）」について
 - ④ 郵政事業を巡るグローバル環境・国内環境
 - ⑤ タスクフォース取りまとめ骨子（案）
 - ⑥ ③～⑤について意見交換
 - ⑦ その他
- 5 議事要旨
 - (1) 開会（事務局より開会の宣言）
 - (2) 議題

- ① タスクフォース論点整理案（国内関連）
（総務省青木室長より資料に基づき、説明があった。）
- ③ 「JPビジョン2025+（日本郵政グループ中期経営計画見直し）」について
（総務省瀬島課長補佐より資料5-1に基づき、説明があった。）
- ④ 郵政事業を巡るグローバル環境・国内環境
（総務省玉田部長より資料に基づき、説明があった。）
- ⑤ タスクフォース取りまとめ骨子（案）
（総務省青木室長より資料に基づき、説明があった。）

（3）意見交換

（各構成員より以下のとおり意見があった）

・タスクフォース論点整理案（国内関連）について

○現状や課題の変化が客観的に分かるように「数字」があると良い。例えば、コストについての民間との比較、条件不利地域に残る郵便局に対する利用者の評価などである。

○資料中「DX」や「サイバーフィジカル」に触れてはいるが、基本的にはフィジカルからのDXであり、「物流DX」の一端を担っているとの認識が大事だと思われる。「物流DX」に関わる主要メンバーの1人として、特に共創関係においては、場合によってはイニシアチブを持つようなこともある旨、記載があると良い。

○郵政事業や郵便局が果たしていく役割について、社会全体の中での位置付けというのが重要な視点だと考える。データや取組事例について、事務局と連携して提供できると良い。

○行政のデジタルサービスについては海外に比して厳しい状況にあることが明らかになったが、非常に身近なところにある郵便局が、デジタル化が進んでいく中で、安心できるような暮らしに対して、具体的にどのような役割を果たすのかについて、本検討で浮き彫りにできると良い。

・タスクフォース取りまとめ骨子（案）について

○スタートアップ企業の視点から見ると、対国内企業、対海外企業のいずれにおいても「実

績」が大変重要であると感じており、自社の場合は郵政グループとの取引が事業展開の足掛かりとして非常に機能したと感じている。郵政グループとの連携実績のあるスタートアップ企業に対して国としてもアプローチしていく方向性についてもしっかりと記載されるとよいのではないか。

○海外展開について、サービスも機器も良ければ勝つというわけではなく、しっかりと標準化も見据えた海外展開として欲しい。

○デジタル・インクルージョンに関連し、あくまでもフィジカルを残すということなので、デジタルになりたくない人にも寄り添える旨、明言しても良いと考える。

○インフラの海外展開に関して、日本の企業の郵便事業そのものへの参入については、規制の強い分野でもあり、非常に難しいと思われる。J I C Tとしても海外での郵便事業そのものへの支援は難しい状況と認識しているが、一方で、D Xの活用等で運営を請け負う形態等での事業展開は考えられ、支援の可能性はあるのではないか。

○インプットの結果、どんなアウトプットがあって、成果が何なのかについて、一部でも記載があると、振り返りの際に有用である。

○海外展開に関して、官民連携や企業間連携が起こるケースについて、具体的にどの程度のものがそれに相当するか、民間事業になりそうなのか否かなど、成果を想定した形で共有すると良い。

○インクルージョンに取り組んでも逆に分断が進んでいるというのが現状である。取組について細かく効果と対比し、成果が出ている注力すべき分野を明確化できると良い。

以上